右俣は，次から次へと適当に滝が出てきて，あきることはない。簡単に直登でき，沢の入門コースとして最適である。

左岸から支沢が入り，４ｍの滝を越すと，沢は明るくなり伐採地に出る。さらに進むと，やがて沢は傾斜を増してくる。約１時間登った所で遡行終了とする。あとは左俣めざしてヤブをこぐ。20分でなだらかな尾根に出た。ヤブはそう濃くない。　　（記・

［タイム］　島川林道６号橋(10:50)→下文殊沢出合(10:55)→二俣(11:05)→遡行終了(12:00，12:10)→尾根(12:30)

下文殊沢左俣（下降）

1985年9月28日
L

右俣の遡行を終えてから左俣の下降に移る。尾根のヤブはそう濃くなく，楽に下降点に移動できた。

すぐに沢の上部に出る。源頭は落葉で覆われていた。多少肌寒く，沢歩きの季節としては少々遅いようである。

下降を開始し，いくつかの支沢を合わせると，沢床はナメとなる。沢全体がナメのようであるが，所々倒木や石がつまっていて，景観がだいなしである。

最初の滝は，左岸からの小沢が合わさる３段になった６ｍの斜瀑である。あとはもう大きな滝はなく，１～２ｍの小滝が出てくる程度である。最後に３段の連瀑となったのがせめてものなぐさめであった。

右俣を合わせ，島川との出合まで降りて下降終了となる。　（記・

［タイム］　下降開始(12:40)→右俣出合(13:50)→島川出合(13:55)

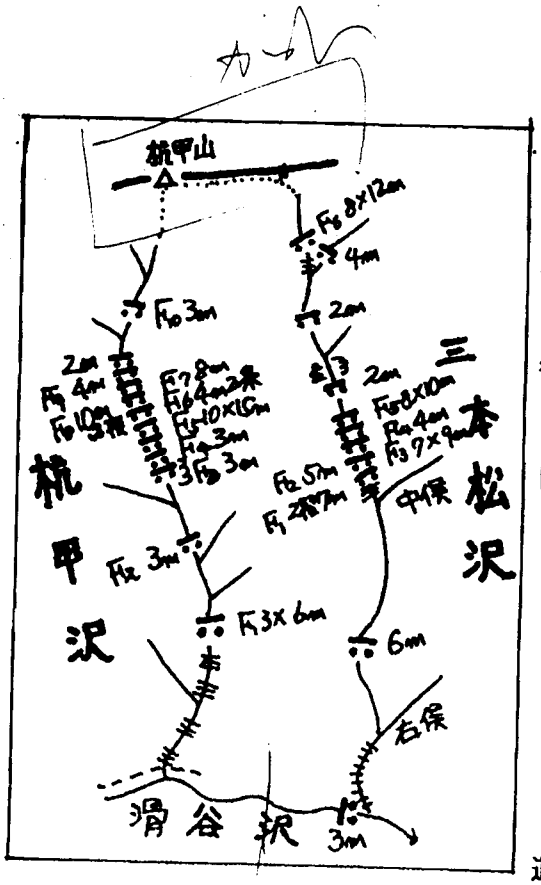
三本松沢左俣（下降）

1985年9月22日
J

杭甲山山頂より北側のコルに向けてヤブをこぐ。ここにはかすかな踏跡が残されているが，ほとんどヤブにうめつくされようとしている。

コルより下降開始。すぐ沢に出て，８×12mのナメ滝。これを降りると，すぐ左岸から４ｍ滝をかけて小沢が合流する。ここで昼食をとり，再び下降再開。

小滝を越すと，今度はミニゴルジュ。しかし，通過に困難はない。やがて，５ｍ前後の小滝が連続するようになるが，いずれの滝もクライミングダウンにて下



降可能。そのあとすぐ中俣を合わせ，沢は平凡となる。

このまま終わるのかと思ったら，右俣を合わせたあとにきれいなナメが出てきた。滑谷沢との出合まで続く。最後は気分よくしめくくることができた。

(記・

[タイム] 杭甲山(11:00)→コル(11:15)→中俣出合(12:00)→滑谷沢出合(12:20)

杭甲沢

1985年9月22日
Lj

栗子トンネル手前に車を置き，旧国道(廃道)を滑谷沢出合まで歩く。滑谷沢を少し下って杭甲沢出合へ。出合はヤブがかかり，ともすれば見逃しやすい。あとでわかったことだが，旧国道からここまで，踏跡がある。

9:35遡行開始。出合のヤブはすぐになくなり，沢らしい形態となり，ナメが断続的に出てくる。やがてF_1。3×6mのナメ滝で，軽くパス。

F_2 3mもなんなく越えると，二俣となる。水量の多い右俣に入る。

沢が左に曲がる所にF_3 3mがかかり，そこより核心部となる。8個の滝が続くが，いずれも直登でき，なかなか良い遡行となる。

左より小沢が入り，F_{10} 3mを過ぎると，水も少なくなる。やがて沢はルンゼ状となって水も濁れる。ルンゼを登りつめ，あとはヤブこぎ15分で杭甲山頂上に突き上げた。

(記・

[タイム] 杭甲沢出合(9:35)→遡行終了(10:30)→杭甲山(10:50)

桂沢(下降)

1985年9月22日
L

旧国道より沢へ。入口部分がひどいヤブだったが，すぐに歩きやすくなり，沢